

# 第1回栃木県総合計画懇談会等における各委員の御意見

No. 1

第1次素案の構成	項目	各委員の御意見
<b>【第1部】</b> <b>第1章</b> 第1節 時代の潮流と“とちぎ”の課題	(全般)  1 人口減少・少子高齢化    8 地方分権時代の到来	<p>○トピック（囲み部分）は、象徴的な実例など、栃木県の実情をできるだけ分かりやすく紹介するものが良い。</p> <p>○「人口減少・少子高齢化」では、2015年には単独世帯が1位になるような見込みなども重要である。</p> <p>○道州制を見据えて、栃木県のあり方や、県内の市町村合併も含めた市町村のあり方も今後の計画に載せていかなければならない。</p> <p>○県は、立場の違う市町村間の調整をしっかりと図り、県民一人ひとりの幸せにきめ細かく対応していくことが求められている。</p>
第2節 “とちぎ”の可能性と潜在力	(全般)  7 次代を創る豊かな人材    8 “とちぎ”の総合力	<p>○地域の特色を發揮して“とちぎ”づくりを進めていくなどの内容も加えた方が良い。</p> <p>○「次代を創る豊かな人材」の項目に、「コミュニティ」の内容（言葉）も書き込んだほうが良いのではないか。</p> <p>○「次代を創る豊かな人材」について、東京等に進学した学生等、本県で育成した人材が流出していることに不安を感じている。若者が戻ってこないのであれば、リタイヤした方々を呼び込むことも考える必要がある。</p> <p>○栃木県は全国的にはとても影が薄い。もう少し対外的に上手に情報発信していくことが必要である。</p> <p>○“とちぎ”だからできることをどんどんやって、“とちぎ”という名前が前面に出るような活動を、市民レベルでやっていくべきである。</p>
<b>第2章</b> 第1節 “とちぎ”の将来像		<p>○“とちぎ”をどのような方向に持っていくのか、どういう“とちぎ”が良い“とちぎ”なのか、方向性を打ち出してほしい。</p> <p>○これからは、どういう県を作っていくべきか、どういう将来像を描き、それにどう向かっていくべきか、我が県の良いところはこのようなところがあり、それをこういう風に伸ばしていこうということを明確にしなければならない。</p>

# 第1回栃木県総合計画懇談会等における各委員の御意見

No. 2

第1次素案の構成	項目	各委員の御意見
第2節 “とちぎ”の将来像の実現に向けて	1 “とちぎ”づくりの基本姿勢 (全般)	<p>○みんなが一致団結する気持ちを持つことができれば、それぞれの立場で何か作り上げられる。</p> <p>○実際の協働は、市町村の中で、それぞれの特性に応じて行われている。県はそれをバックアップするという考え方を打ち出すべき。</p> <p>○県民が、時間ができて何かをやろうという時に、飛びつける場が常にどこかにある“とちぎ”にしたい。</p> <p>○協働をどのように進めていくかがポイント。CSRなど上手に活用することが必要である。</p>
	2 “とちぎ”づくりの基本方向 (1) 政策推進の基本	<p>○地域住民が安全に明るく生きていくことのできる社会をつくるため、あまりお金をかけずに、心の問題を重点に取り組んでいくべき。</p> <p>○「心の教育の推進」や「安心して子どもを産み育てることができる環境づくり」、「高齢者の自立支援と生きがいの推進」は、すべて根っこが共通している。家族や近隣の助け合いなど、心の問題と、自分のことをきちんと自分でやれるということである。</p> <p>○いろいろな部分で福祉が最後の受け皿であると思う。マンパワーで栃木県をどう変えていくか。</p> <p>○私は“とちぎ”が大好きだが、“とちぎ”が大好きになる家庭教育や、県民意識の向上ということが大事だ。</p> <p>○私も“とちぎ”が大好きであり、これを大人が発信していくことが大切。親は“とちぎ”が大好きだと子どもたちに発信しているのだろうか。</p>
	(2) 政策推進に当たっての視点 (全般) (第2部も含む)	<p>○「政策推進に当たっての視点」については、それぞれをどう結びつけるかが重要であり、視点を横につなぐのが総合計画の役目であろう。</p> <p>○行財政資源を有効に活用するためには、1つの施策で多岐にわたる分野で効果が出るような施策を考えるべきである。</p> <p>○「現状分析を受けて、これからどうする」という視点が重要である。従来の総合計画の時代とは問題意識を変えていく必要がある。</p>
	① 安全・安心の確保 (第2部も含む)	<p>○「安心して子どもを産み育てることができる地域づくり」は重要である。課題は、医療が充実していない、地域コミュニティが崩壊している、まちに活気がないこと。</p> <p>○様々なことが進歩・進展する中で、子どもたちの健康障害や発達障害は増加の一途をたどっている。</p>

# 第1回栃木県総合計画懇談会等における各委員の御意見

No. 3

第1次素案の構成	項目	各委員の御意見
第2節 “とちぎ”の将来像の実現に向けて	① 安全・安心の確保 (第2部も含む)  ② 活力の創出 (第2部も含む)	<p>○私が勤めている医療現場では、医療スタッフが慢性的な人員不足の状況である。</p> <p>○県と市民ボランティアが手を携えて地域の高齢者を支えてきた、栃木県は小規模・中規模多機能の福祉において全国の先進県である。</p> <p>○「安心で良質な医療の確保」であるが、医療現場は医療関係者の犠牲の上に成り立っているような状況である。</p> <p>○県内でも医療の格差があり、開業医が高齢化したり開業医が少ないなど、医療を提供される住民に不便なところがある。</p> <p>○社会のセーフティネット、子育て環境の整備、保健・医療・福祉の分野は、もっと積極的に提言しても良いのではないか。</p> <p>○「暮らしやすい」ということが一番だと思うので、「みんなが安心して暮らせる栃木県」といったものを、見つけていきたい。</p> <p>○「安全・安心の確保」に、医療や福祉の表現も加えた方が良い。(防犯だけのイメージになってしまう。)</p> <p>○県外に進学した若者が帰って来ないという他県の記事を読んだが、本県も同じ状況にあると思う。栃木県内の企業の見直しも重要だ。</p> <p>○少子化の中でどんどん東京圏に進学してしまった場合、県内の私立大学が生き残れるのか、心配だ。</p> <p>○「活力の創出」に、雇用の表現も加えてはどうか。また、文化・芸術も活力の創出に繋がるものである。</p>
	3 “とちぎ”地域づくりビジョン (1) 地域づくりの基本方向	<p>○「地域づくりの基本方向」に市町村との連携や県民との協働の記載も加えた方が良いのではないか。</p>
<b>【第2部】</b>		<p>○近くの人にだめだと言われても、県内のどこか遠くの人に相談すると、これはこういうことだと教われる多層的なコミュニティの復活を考える。</p> <p>○何かをやろうとする市民・県民が学ぶきっかけとして、行政が、市民にどんどん悩みをぶつけてもらえるような活動をしてほしい。</p> <p>○より良い“とちぎ”づくりに向けた参加意向を持っている県民が、具体的に県を良くするよう行動できる装置を考えるべきである。</p> <p>○これまでの産業集積・技術集積をどう残し、どう活かすのか考える必要がある。</p>

第1回栃木県総合計画懇談会等における各委員の御意見

No. 4

第1次素案の構成	項目	各委員の御意見
<p><b>【第2部】</b></p>		<p>○人口減少・高齢化と安全・安心や環境の問題は相互に関連している。総合的に議論していく必要がある。</p> <p>○「高齢化」の視点として、①高齢化による課題を行政としてどう解決するかという面と、②高齢化を受け入れ、高齢者を上手に活用するという見方がある。特に、②は、栃木は東京に近く、災害も少ない、高齢者が活躍している農業も盛んなど、高齢者を受け入れる体制が整っているため、高齢化を積極的にとらえた施策をうまく打ち出していくと良い。</p> <p>○県民との協働に力を入れていることは承知しているが、具体的にどのような対応をして良いのかわからない人も多いと思うので、実際の取組等を紹介して欲しい。</p>
<p><b>【次期総合計画の策定に当たって】</b>                  ※総合計画のあり方、財政との関係について等</p>	<p>1 総合計画策定の基本的考え方                  （【第1次素案】第2章第1節“とちぎ”の将来像も含む）</p>	<p>○今までのように総論が短く各論が長くなっている形ではなく、将来像を明確にし、新たな計画の作り方を考えたほうが良い。</p> <p>○財政的な課題も重要である。県民が暮らしやすい県にしたいのか、財政を改善したいのか。歳出を抑えるのか、歳入を増やすのかという大きな目的を決めないと改善されない。</p> <p>○次期計画は、単純に歳出削減か歳入増加かということのみを議論して策定するものではない。県民ニーズと財政運営の両立というジレンマがある。</p> <p>○県と県民の協働でそれぞれの役割を果たすことを明確に打ち出し、理念に据え、今後5年間の財政状況の基本をどう押さえて計画していくかが大切。</p> <p>○次期計画については、財政問題は余り考えず、各団体や県民の皆さんの夢を盛り込んでいただきたい。</p> <p>○財政が厳しい時に、心の豊かさを実感できるようにするためには、一人ひとりの幸せをきめ細かく見られる行政が必要だ。</p> <p>○県民の皆さんに見てもらえるような、親しんでもらえるような冊子に仕上げたい。</p>
<p><b>【その他】</b>                  県民アンケート調査について</p>		<p>○企業経営者や企業人を対象としたアンケートがない。地域の企業の成長を考えなければいけない。そういったところの意見が必要である。</p> <p>○「県民と行政の役割分担のあり方」について、県民のために住みやすい県をつくるというようなアンケートにすると、行政依存型になってしまう。</p> <p>○特定分野に対するアンケート調査をすれば、もう少し違った結果が出たのではないか。</p>